

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771100611
法人名	社会福祉法人サマリヤ
事業所名	サマリヤ大川グループホーム
所在地	香川県さぬき市大川町田面1198番地
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 24 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771100611-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かなさぬき市の東端にあり、すぐ近くをさぬき東街道が走る交通の便の良いところ。天気の良い時は裏庭や近所を散歩。外の風で季節を感じられます。利用者一人一人に合わせた個別処遇を主に寝たきりにさせないよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に優しくポカポカと温かさを注ぎ、居眠りをしたり、テレビを観たりして、昔に戻ったような空気が施設を同化させていた。「トイレかな？」と優しい言葉で耳で囁き、手を引きながら利用者ペースで、ゆっくりと確実に足を運ばせた。リビングに帰っても、きちんと座るまで手を添え見守り、やっとその場を明け渡した。家族に電話で、「何かありますか？」と問うと「何か役割を与えて」と返答があり、「どんな事を望みますか？」と尋ねたら、「洗う物は？」とお聞きし、現在、それを反映させている。難しい事をトライさせず、色々な角度から見極め『待つ介護』を徹底し、職員は、利用者にとりもって対応しながら、のどかな家庭を生んでいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「愛・忍耐・技術」に基づき、職員の意見を募り、地域密着型サービスの役割を踏まえ、事業所独自の理念として「ようこそ私たちは温かいまなざし、優しい言葉、柔和な行いでおもてなし」を策定し、玄関とホールにそれを掲げ、職員は日々それを念頭において業務を行っている。	理念の唱和はしていないが、職員同士心が伝わっていて、行動が証となっている。会議では、「あなたにとって、どう思いますか？」と促したり、緊急の時以外は別として、「これについてはどうですか？」等と、さりげなく普段の中で噛み砕いて解りやすく、話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入し、清掃作業や秋祭りなどに参加している。また、認知症講演会を開催し、地域の方々に参加して頂いて認知症への理解を深めてもらっている。地域の自主防災組織に参加している。なお、当施設は水害時などの一時避難場所となっている。	町内会に参加していて、ゴミ当番と溝掃除を行い、近所の方と当たり前に挨拶をしたり、天気の話をしたり、気楽な話で和を保ったり、消防団にも参加して地域の情報も頂いている。また、地域のボランティアも参加してくれ、演奏会なども楽しみの一つで、今は、施設内で歌ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内外部で行われている研修会などに出来るだけ参加し、地域運営推進会議などの場で発表を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、利用者様に対するサービスや日常生活の様子を報告し、運営推進委員らから頂いた意見を参考にサービスの更なる向上に努めている。	報告は書面で行っていて、地域の自治会長・民生委員・市と管理者・ケアマネ・理事長が参加している。「こういう行事をしたら」と助言を頂き、やってみたら利用者の「よかったあ」との意見が出て、また、新しい事してみようという気持ちが職員間で飛び交っている。	推進会議に様々な人が参加していただき、気楽で身近な委員会をして、もっと、アイデアを出して頂いては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議の場で情報を頂いたり、さぬき市役所寒川庁舎内介護長寿課に出向き、当施設の近況などをお伝えして協力関係を築くよう努めている。	窓口は管理者で、ここ最近、相談し易くなった。市町村からも電話をかけて来てくれ、情報も豊富にくれる様になったので、こちらから何でも言える環境が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を実施し、拘束の無い介護に取り組んでいる。	身体拘束はしていない。夜間のみ施錠している。身体拘束防止の研修は毎月開催していて、ベッド柵の使用方法や、「オムツいじりを無くすにはどうしたらいいか?」、「傾聴によるストレス回避などの意見は?」などを出し合って、ケアの実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設け、全職員が虐待について理解し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は関係者と話し合い、研修の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や制度改定時に説明をし、理解を得て頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置し、御家族が意見や要望を入れやすいようにしている。要望などがあれば職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。	家族からは「何か役割を与えてあげて下さい」との意向に、洗い物や机拭きを一緒に取り組んだりして、他の方に派生させ、共用フロアでの共に行うケアを広めていっている。訴えの難しい方にも、色々な角度から言葉を投げかける事で、一緒に歌を歌って楽しみを分かち合おうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見を出しやすい雰囲気を作り、意見があった場合は、月一回の定例会議にて話し合っている。	理事長も参加し、職員の意見をよく把握してくれる。毎月の定例会で、主に業務改善の内容が多く、職員が満遍なく意見が出ている。プライベートな事は、適宜その場で聞き取って対応している。働き方改革も順調に浸透してきた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定例会議などで職員からの意見を聞く場に出席し、環境整備や条件調整などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員に対して内外研修に自主的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大川地区グループホームケアマネージャー会議に管理者とケアマネージャーが参加、意見交換を行い、各々の施設のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の心身状態を把握、希望や要望に応え、安心して生活できるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で御家族の悩みや不安を伺い、当施設で可能不可能の説明をし、理解を得てサービスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人と御家族の話を傾聴し、必要な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はできるだけ行って頂き、利用者様同士が支え合って生活できるような雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても家族の一員である事を理解して頂き、協力して頂けるよう連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加する機会を設け、馴染みの場所や人に会う機会を絶やさないように努めている。	裏庭での野菜作りを日課にする方や、行きつけの喫茶店でモーニングセットを楽しんだりする方もいる。今年も地元の神輿、獅子舞の訪問があり、皆で馴染みを深めた。近所のお寺も、今ではすっかり馴染みの場となり、家族や知人との電話も気軽に応じる環境が整っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全ての利用者様がホールに集い、個別ケアを基本に、全体としてレクリエーションやリハビリなどで関係作りに努めている。利用者様が孤立しないよう、職員が気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所されることになっても、相談や支援は継続し、その後も不安無く過ごされるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様の希望や意向は、御家族様らと交えて話し合い、それに沿った支援を行っている。また困難と思える場合は、職員間で話し合い、御家族と相談して、これまでの生き方を尊重し、それに沿えるよう努めている。	家族からは、電話や面会の時に聞き取り、生活に変化があった時には電話で報告している。ちょっと手の空いた時間に、一緒に寛いで話を花を咲かせたり、入浴時やトイレ介助の時や夜勤の時に利用者も話しやすく、難しい方には、「歌を歌ってみようか?」と言葉を投げかけて、把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人様や御家族様から生活歴を聞き、御本人様が安心して生活出来るよう努めている。これまでの暮らし方が継続できるよう、御本人様への理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で状態に変化が生じた場合は、それに合った支援が出来るよう職員間で話し合っており、変化状態は朝夕の申し送りによる職員間の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議などで意見を出し合い、御家族からの意見を聞いたり、主治医に相談したりして介護計画を作成している。御本人様に変化が見られる場合には、随時介護計画を作成し直している。	入所時に立てたプランを、特に変わらない限り3ヶ月毎に見直している。一人の利用者を職員全員で情報共有し、モニタリングは3ヶ月毎。ケアマネが職員・医療従事者・本人・家族から聞き取りをして、現在の状況と照らし合わせて、聞き取り、プランに落とし込んで交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様らの様子は、朝夕の申し送りで職員間に伝えており、その内容は管理日誌及びその方の日報に記載して情報を共有、実践や介護計画の見直しなどに活かしている。個別規則のあり方を検討し、介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の同行等、介護保険以外のサービスを提供している。御本人様の心身状態を把握し、希望や要望に応え、安心して生活出来るよう関係作りや柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ディサービスとの共同で行っているピアノコンサートなどに参加し、生活の中で楽しみが見つけられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医を確保し、御本人様の容態によって受診出来ない場合は往診をお願いしている。(内科・歯科)	入居時に元のかかりつけ医と提携医と選べるが、皆、提携医を選ばれる。通院の介助は職員が行っていて、他科は、家族が通院を介助している。往診や訪問看護は必要時に頼め、どの医療従事者とも、気軽に話し合える関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理などは看護職員が担当し、介護職員が安心して相談出来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が交代で容態を見に行くようにして御本人様が安心されるようにしている。その都度、病院側担当看護師らとも話し合いが出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対しても、御本人や御家族様らに入居時に説明をし、納得して頂いている。	入居時の重要事項にて看取りを行っている旨や、医療機関や入所への便宜を図る事を説明している。殆どの方が、ここで天寿を全うされる。年2回の研修は、事例検討や理事長からの座学や看取った後のデスクカンファレンスを題材としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や、救急救命の講習を大川広域消防の協力により実施してもらい、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施、いざという時に備えている。訓練には地域住民らも参加されることもあり、協力体制が築けている。また、当事業所は安全な場所として、一時避難場所になっている。	水害時の避難場所にホームが選ばれている。年2回、火災と救命救急の訓練を夜間想定して利用者で行っている。訓練は、隣接のディサービスと合同で開催する。備蓄は、水と食料・寝具・衛生材料等を1週間分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳が損なわれない対応を普段より心掛けており、トイレや浴室はカーテンで仕切るようにしており、足元まで隠れる長さにしてある。	呼称は、苗字に「さん」を付けている。入室時には、ノックをして、「失礼します」と必ず一声かける。肌を露出しやすい場面では、カーテンで仕切ったり、何かで服を汚された時は、周囲に気付かれない様に静かに個室に誘導し、対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行し、自己決定が困難になられた利用者様には、言葉かけの工夫をしたり、表情や動作を観察して、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合った生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧やカットなど御本人様の希望に沿うよう、個性や好みを尊重している。また、外出時の服装にも気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎で調理する方式を取っているが、味付けを調整したり、利用者様各々が食べやすい大きさに切ったりするなど工夫している。また、見た目も良いように盛り付けの彩りや食器の色形にも気を配り、美味しく楽しい食事が出来るようにしている。下膳など出来る事は利用者様に行っている。	ケータリングしたものを利用者と一緒に、「配膳や机拭き、盛り付けも一緒にしませんか？」と言葉を投げかけながら、出来る限り共に行っている。盛り付け前の食器選びも利用者との楽しみの時間。春には、裏庭の竹林から筍を掘って、天ぷらや筍ご飯、煮つけにして食卓に上がる事が風物詩。	日本本来の田舎の良さをもっともっと引き出して、昔味わった自然の物や旬を他の施設でできない楽しみとしては如何でしょうか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様らの健康状態を把握し、無理無く飲食出来ている。汁物や副菜からの水分、間食時の飲み物などから一日の水分量を確保している。特に夏は脱水にならないよう気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様らの状態に応じて口腔ケアを行っている。御自身で歯磨きが出来ない方には職員の介助で口腔内の清潔が保持されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前や行事の前など利用者様に合わせてトイレ誘導を行っており、日誌に記入し排泄状況を把握している。	昼間はトイレで出来る様に、排泄記録と時間毎の言葉かけで誘導して、自立機能を維持させている。どうしても必要な方のみ、夜間にポータブルトイレを利用している。これらの取り組みにより、利用者には、満遍なく機能維持に貢献出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録を確認し、便秘の症状がある時には、かかりつけ医に相談し、便秘薬を使用している。予防策として、水分摂取の確認やお腹を押し、腸に刺激を与えるようにしている。飲食物ではヨーグルトや食物繊維が豊富なものを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	食事の時間との兼ね合いやレクリエーション行事などで、午前中での入浴が主であるが、ゆっくりと入浴出来るよう時間配分を考えている。	入浴は週2回の午前中を継続。お湯は、一人一人入れ替えている。入浴剤や柚子湯や菖蒲湯も提供され、季節感や雰囲気も味わえる様にしている。嫌がる方には、日にちや時間や人を変えて言葉をかける事で、出来るだけ気分良く入って頂くよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は安眠出来るように、日中はホールに出て来て頂き、陽の明るさやテレビ、利用者様同士の会話などで楽しんで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方を受ける際は、医師に状態報告をし、指示通りの服薬支援が出来ている。副作用についても説明を受け理解している。症状に変化が見られた場合には、医師に連絡し、回復するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品については、以前生活していた時と同じように対応し、気分転換を兼ねて時々外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆やお正月などには、御家族の協力を得て帰宅出来るように配慮している。また、四季折々の地域の行事には利用者様らが戸外に出られるよう支援している。(初詣、花見、菖蒲見学、紅葉狩りなど)近所の散歩に同行したり、買い物支援を行ったりしている。	散歩や裏庭の畑に出向いたり、天候と体調さえよければ、毎日でも楽しめる。裏庭の桜の木は、皆の拠り所となっている。裏庭の奥には竹林があり、風が吹くとサワサワと音を立てて、利用者の後押しをしてくれるので、裏庭の散歩や洗濯物の物干しも天気が良ければ、さらに元気を与えてくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の要望があり、御家族様から了承を得ている場合は、少額のお金の管理をして頂き、買い物に使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者様らがいつでも利用できる場所に置いてあり、掛けたい時には協力している。手紙や年賀状などのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から自然光が差し込み、空気の入替えも毎日行っている。ホールの窓からは山の緑や庭の草花が眺められ、時期の良い時は利用者様からは心地良く過ごされている。	ずっとずっと、そこにいたい。そんな詫び寂びを感じ、利用者が何も語らず、じっと椅子に腰かけ、昔に浸っていた。待ち遠しい給食の合間に、テレビのアナウンサーの声に交じって、管理者や職員の優しい言葉が聞こえ、一層落ち着ける我が家のもてなしとして、リビングを飾っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様各々個別の椅子に座られており、思い思いに一日を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物類、タンス、お仏壇など、利用者様各々の馴染まれた物を使用されている。	自分が勉強していた昔懐かしい部屋が居室になった感があり、本当に心身ともに落ち着ける。そして、自分のわがままが押し通せる部屋となり、好きな物がたっぷりと飾れる有意義な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様らは、大半が一年以上この施設で生活をされており、安全に生活出来るよう努めている。		